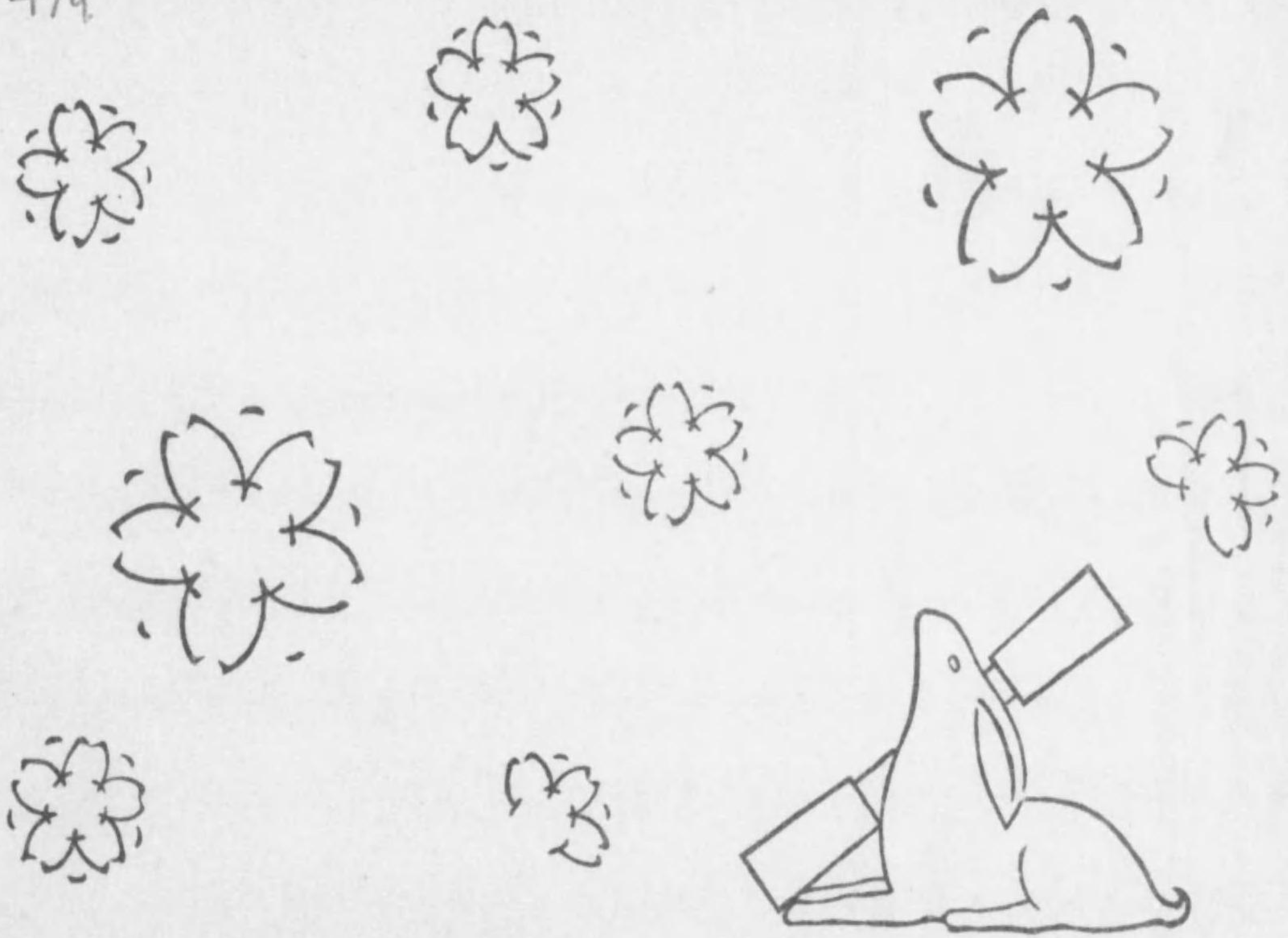
特258
479

始

著者 九世家元 望月太左衛門 検印

特258
479



賤機帯

前弾キ一下リ 又ハ本調子「名にし吾妻の角田川 合その武蔵野と下總の、眺め隔てぬ
春の色合櫻に浮かぶ富士の雪合柳に沈む筑波山、紫にほふ八重霞、錦
をこゝに都鳥、古跡の渡なるらん　謠ヒガヽリ カケリ「春も來る、空も霞の瀾
の糸、亂れて名をや流すらん 合「笹の小笹の風厭ひ合花と愛でたる垂
髫子が、人商買にさそはれて、行方いづくと白木綿の、神に祈りの合
道たづね合浮きてたゞよふ岸根の舟の合こがれ〳〵ていざ言問はん、
我が思ひ子の合有りや無しやと狂亂の合正體なきこそあやなけれ
ワキ「船人是を見るよりも、奸い魁みと戯れの、氣ちがひよ、氣ちが
ひよと、手を打ちたゝき囃すにぞ　シテ「狂女は聞いて振返り、あア氣
違ひとは合曲もなや　合　クドキ「物に狂ふは我ばかりかは、鐘に櫻の物
狂ひ嵐に波の物ぐるひ、菜種に蝶の物ぐるひ合三つの模樣を縫ひにし
て、いとし我子に着せばやな、子を合綾瀬川名にも似ず、心關屋の里
ばなれ合縁の橋場の土手傳ひ、往きつ戻りつ此處此處、尋ぬる我子は
いづ合くぞや、敎へてたべと夕汐に　ワキ「船長なほも拍子にかゝり
「それ其の持つたるすくひ網に合面白う花を掬ひなば、戀しと思ふ其
人の、在處を敎へ参らせん　シテ「なに、面白う花をすくへとか合いで
〳〵花を掬はん 合「あら心なの川風やな（川風や）、人の思ひも白波に
合散り浮く花を、掬ひ集めん、心して吹け川風合沖のかもめの、ちり
やちり〳〵、むら〳〵ぱつと、ぱつと亂るゝ、黑髪も、取りあげて結
ふ人もなし　ワキ「船長今は氣の毒さ、何がなしほにと立ちあがり
二上リ「そもさても、和御寮は、誰人の子なれば合何程の子なれば合尋
ねさまよふ其の姿、見る目も憂しと、諫むれば 合「音頭々々と戯れの
鼓の調べ引き締めて合羯鼓を打つて見せうよ 合「面白の春の景色や、
筆にもいかで合盡さん、霞の間にも樺櫻、雲と見えしは三吉野の吉野
の川の瀧津瀬や 合「風に亂るゝ糸櫻合いとし可愛の兒櫻、したひ重ね
し八重櫻、一重櫻の花の宴合いとしらし　謠ヒガヽリ「千里もかをる梅若
や「惠みを仰ぐ神風は、今日ぞ日吉の祭御神樂、君が代を合久しかれ
とぞ祝ふ氏人

手附の見方

一此の手附は御覧の通り長唄一番に對する、小鼓、大鼓、太鼓等の各手附を八拍子罫線の上に並べて書いてありますので囃子相互の關係は申す迄もなく唄、三絃、笛などの關係をも一目で分るやうに編纂してありますそれですから此の八拍子の罫線をたどって囃子の手附と唄、三絃、笛などの關係とをよくよく御注意下さい、

一長唄にハ、拍子に合ふところと、合ハぬところとがあります此の手附の

中に（拍子に合ふ）又ハ（拍子に合ハず）と記してあります、併し、唄、三絃が拍子（罫線）に合ふところでも囃子の入らぬところは、八拍子罫線にこだはらず書いてあります、

一 手附中の符号ハ、朱書が小鼓の手、其の右側の黒書が、大鼓の手、緑書が太鼓の手であります、笛の符号は唄、三絃と共に黒書にしてありますが、それハ、大小太鼓の三拍子に必用のところだけに記入してあります

一 手附中の欄外右端に一拍子二拍子と書いてありますのハ地拍子（表間）の符号で各拍子線の間の点線は一拍子二分の一の点るしであります併し八拍子に割りきれぬ手は、句切のよいところで八拍子に切上げ其の残りは特別の点線で仕切ってありますから其の場合手附は直に次の行に續くものと御承知を願ひます

一 上欄はおッ手の名稱及び就習後の手附符号であります、

一ツハツアイヤアンツハツアトツタン

之ハ心の中で取る間拍子を表はしたものであります、此の内「ツ」の字は、コミ即ち半拍子を呑んで取るのです之を八拍子に割つて記しますと左の様になります、

一之だけを一クサリと云ひます、

一一番上の点線と一番下の点線は同じものであります、

一拍子線と点線との間へ挟まつた手附ハ四分ノ一拍子であります、

賤機帯

〽古跡の渡りなるらん

カケリ　唄ヒ込ミ

打放　ヨロシノ手（キザミニテモ宜シ）ヌキ　打放

キザミ　ヌキ、結ビ本上ゲ

〽テチチチンチンチヤン

序の舞　掛リ　ヨイ　一クサリ　延ル（二頁参照）

〽我が思ひ児の

ヨイ　井　チリ　○ハコ　○×○　井ッタ　○×○　井ッ○

ゝゝ　ケ乀―タ○　ハラ

〽有りや無しやと狂乱のツンミー

ヨイ　×○○　ケ乀　ゝゝ　ケ乀ス　○○○　×○ン○ン

ヨイ　×○―○　井井―○く　四ツ間　―○―○

打放　結ビ本上ゲ

〽舟長尚も拍子に掛り

コイ合 二ツ 狂言カッコ ッタ ○×○○○〈○○○ イヤ

（太鼓ハ四五六頁參照

〽いでゝ簗をすくさん

ハヲ ○×六拍子 ○〜 △〜タ○○△〜 ○〜

△〜○〈△、 ○ン○ン○ン ハヲ ## ×○○ ×○

ハヲ ×○○〈 ×T △〜 ○〜 △〜 タ○○△〜 ○〜

△〜○〈×〈 ハヲ ## —タ ○○スタ×××〈 六

○ン○ン ×タ ○ ハヲ ## —タ ○○スタ〈×〈 三

ツイ △、○〈×〈△、 ○ン○ン○ン ×T 〈

ハヲ 狂言カッコ（半） ## —○ヨイ△ タ○…、乏

イヤ△ 打ヲロシ 打放ね ○ンス ○○ ○

フヨイ ×○—○ 乏 フヨイ # # ヨイ # #

ハヲ ## —タ ○○スタ〈×〈ツ ○ ハヲ△ ○#〈

○○×○×○ヨイ ×○—○ ##—○ 〈 乏

ヨイ タ○○ン○ン○ンス○○○プ○ ○ス○○ 〈

フヨイ △ タ △○ ## ツ○ イヤツ タ○ ハヲツタ 沖の

○×○△タ○○ ハヲツ○ン #△ ○× タ○

カルク フヨイ # ○ ハヲ 而 乏 乏タ○ ヨイ△ ○○スタ〈 ×○○○

乏 —ス タ○×タ○ ハヲ

〽何がなしほにと立ち上り

小鼓壹調 ヨイ・ そも 三ツ地ス○○ ○ン ○○ス○○

タ○○ イヤ△ス ○○ ○ ツ ハ・ハ○タ○○〈

ヤ○ス○○ ○ツ ハ・ハ○ ハヲ タツ ○ タ、ス ○○○ ヤアハヲ△

〽いさむれば

ハヲタ ⊖○ ⊖ ○ ⊖ ○△揺頭 ⊖ ○△イヤ 〳〵と ○ ヤ○ ハ・○

ツヾケツメル 打上ゲ 合頭

〽羯鼓を打って見せうよ

大小太鼓 羯鼓ノ手 二度返ス

（九頁十頁参照）

〽いとしらし 扣

〽子里も香る梅若や

（太鼓 天天 付込 ヲロシマクリ 高引ヒラキ 打込

小鼓 打コロシ 結ヒヲドリ 長地 ツメ止メ 打込）

段切

賤機帯

〽古跡の渡りなるらん

カケリ 唄ヒ込ミ

打放 ヲロシノ手（キザミニテモ宜シ）ヌキ 打放

キザミ ヌキ、結ビ本上ゲ

〽テチチチンチンチャン

序の舞 掛リ ヨイ 一クサリ 延ル（二頁参照）

〽我が思ひ児の

ヨイ 井 チリ ○ハヨ ○×○ 井ッタ ○×○ 井ッ○

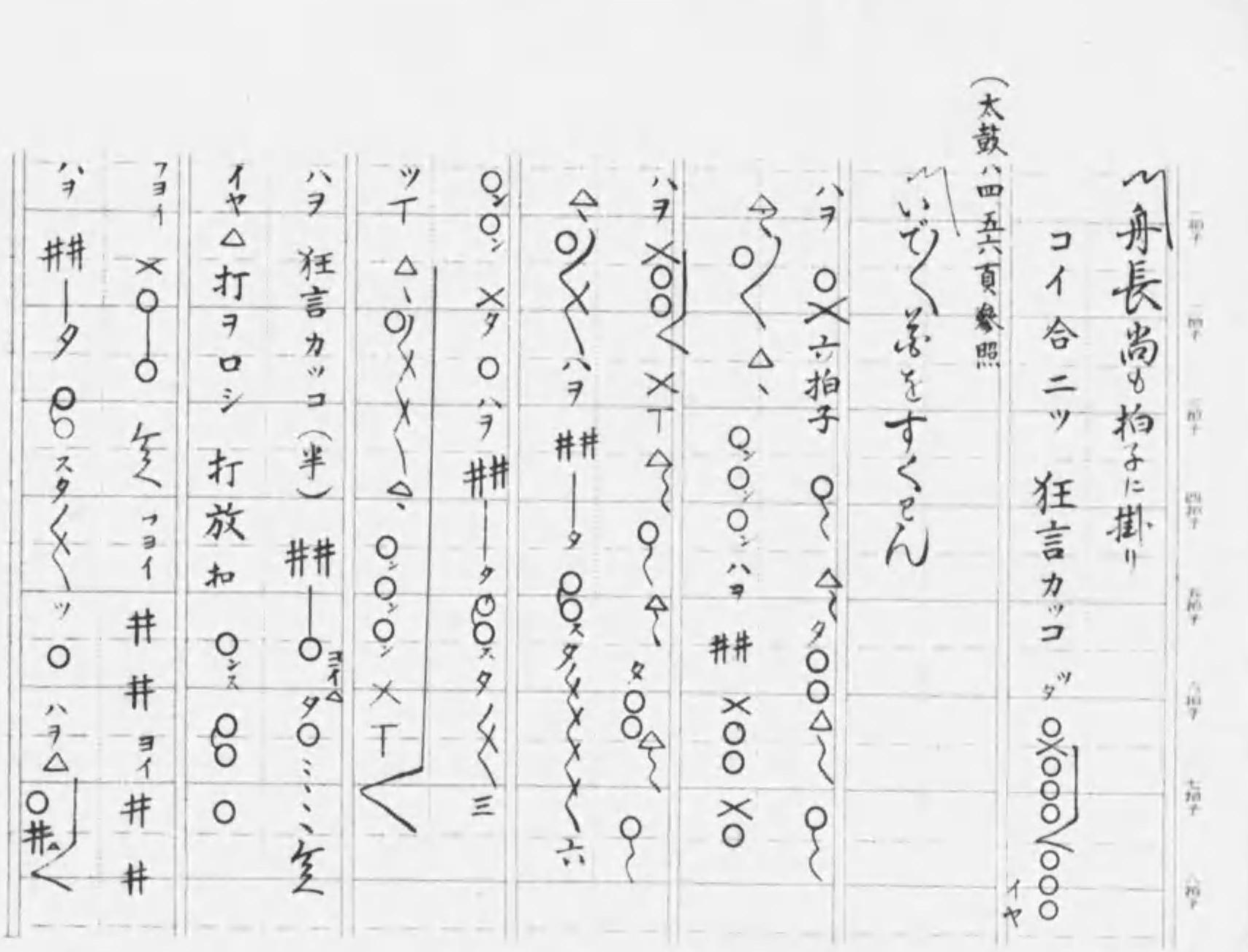
〳〵 ケ〳〵ータ○ ハラ

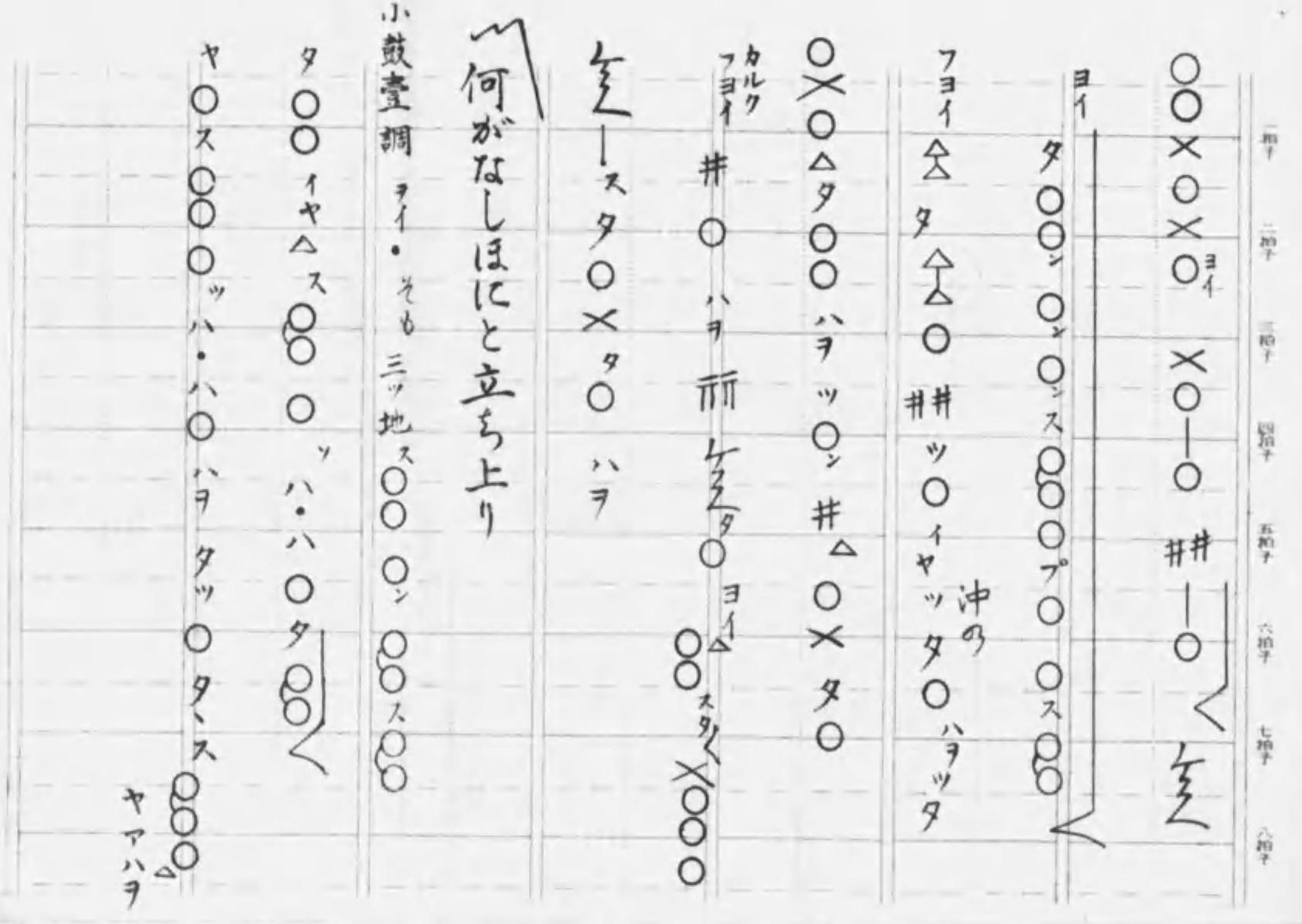
〽有りや無しやと狂乱のツンミミ

ヨイ ×○○ ケ〳〵 〳〵 ケ〳〵ス ○○○ ×○ン○ン

ヨイ ×○ ○ 井井 ○ く 四ツ間 ○ ○

打放 結ビ本上ゲ


舟長尚も拍子に掛り
コイ合 二ツ 狂言カッコ
(太鼓ハ四五六頁参照
狂言カッコ(半)
打放和
打ヲロシ


沖の
何がなしほにと立ち上り
小鼓壹調

いさむれば

ハヲタ ⊖○ ⊖○ ⊖○ ⊖ 〈喑頭 イヤ△〉 ○△ ⊖ ○△ ヤ○ ハ・○ と

ツヾケツメル 打上ゲ 合頭

羯鼓を打って見せうよ

大小太鼓 羯鼓ノ手 二度返ス （九頁十頁参照）

いとしらし 扣

千里も香る梅若や

（太鼓 天天 付キ ヲロシマクリ 高引ヒラキ 打込

小鼓 打コロシ結ヒヲドリ長地ツメ止メ打込）

段切

賤機帯

前引有テ

名にし东の隅田川その

武蔵野と下総の 省略

紫匂ふ八重霞錦をよそに

都鳥古跡の渡りなるらん ツン……

カケリ

次ニ鼓メ打ハナシ

イヤ△ ⊖ ヨーイ ハ○ ▲ ⊖○ ▲ ○ イヤ ○ △

ヒ ― 笛ハ拍子ニ合ハズ 略ス

ヲロシノ手

イヤ△ △ ハ △ イヤ△ ○ ハ ○

短キヌケ地　ヌキ
ヨ△イ　○ハ○　ヤ　ヨ△イ　○ハア○　ハ△　○

唄拍子ニ合ハズ　打放
春も来る

地
ヤ△ア△　○ハ○　△　○○　○ハ○
空もかすみの

地　キザミ
ヤ△ヤア　ハン●　ハ▲　●△ヤ　●ヤ●　ハ△　○ハ○
瀧のいと

ヌ　地
ヤ△ハン　○ハ○▲　△ヤ　ヤ○　ハ△　○ハア　○
みだれて

高キザミ　ムスビ
△　○△　ハ○△　△　ヤ○△　○△　ハ○　。
名をや

打上ゲ　打上ゲ
○ヤ○▲　ハ△　○ヨー　ハ○イ　▲　○ヨ○△イ　○　ハ▲　○ハ○
イヤ△　ヨ△イ　ヤア　○　ハア○
ながすら

ん　引

序之舞　掛リ一ケ外延ル
イヤ△　イヤ△
チチチツチツツテチチ　チンチンチャンさゝ
位静かに

受　カン三ツ地
△
チンツンツツンツチンの小ぎ　チント、
ヤ●　ハ●ハ○

付二ツ

サツウ三地　ツヽケ扣
ヤア　ハ　○　ハア△　●ヤ●　○ハ○

刻一ツ半
さのー　チテン　チテン　チチレテツテントントンかぜ

地　短地
ヤ△ハン　ハ▲　△ヤ　ハ△
ヤア　ハン●　●ヤ●　○ハ○

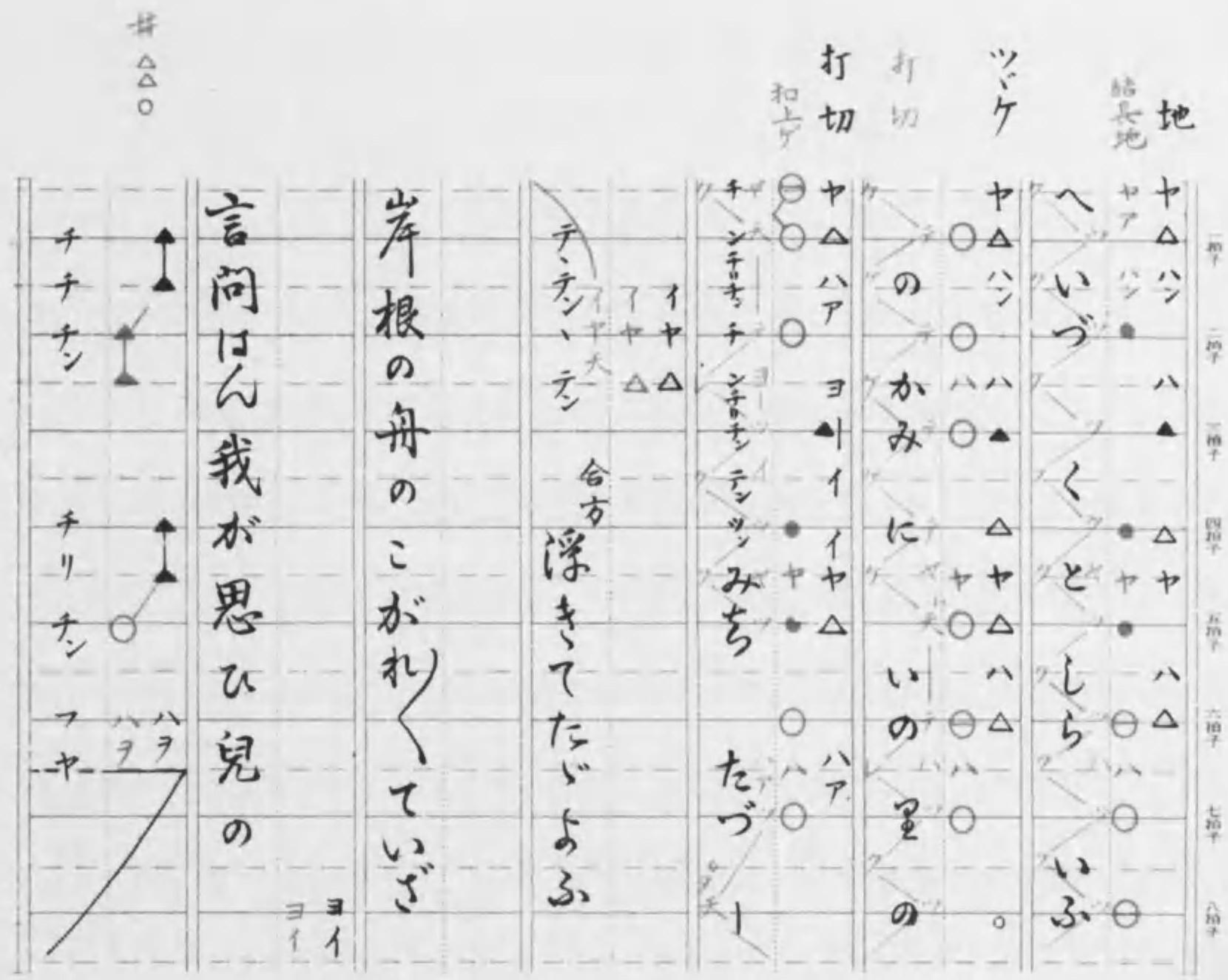
短地
ツトンいとひ　チリンチチリンチチチチンチン

地
ヤ△ハン　ハ▲　△ヤ　ハ△
○○ハ　●ヤ●　ハ●ハ○

刻三ツ半
花とめでたるうなゐこーが　チンチン

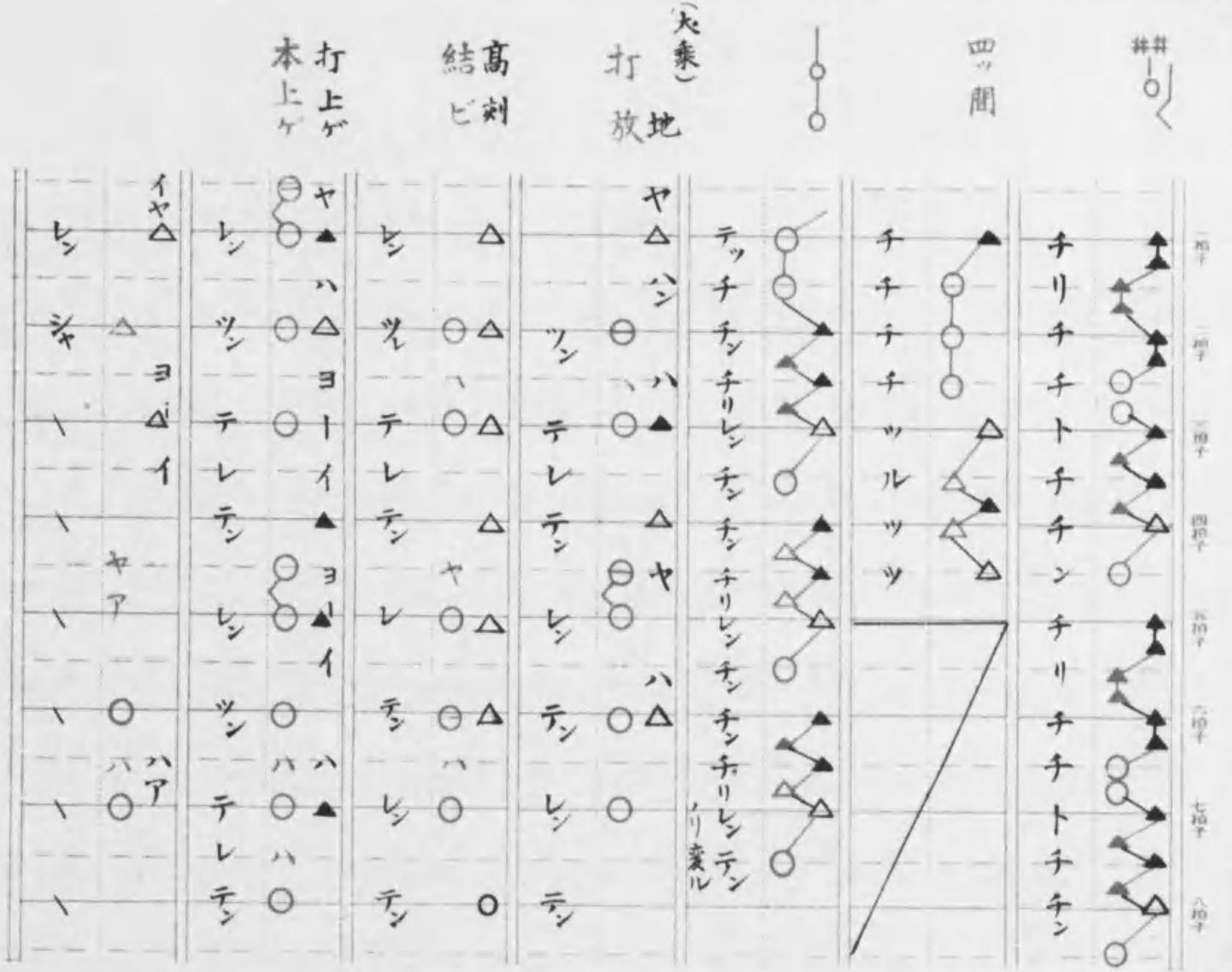
打放　長地
△　ヤア
ヤア　ハン●　●ヤ●　○ハ○
人あきびとにさーそーー

地
ヤ△ハン　ハ△　△ヤ　ハ△
○○ハ○　○○○ハ○
はーれーてー　ツンツンツンツンツン行



地
ツヾケ
打切
へいづくとしらいふ
のかみにいの星の
浮きてたゞよふ
岸根の舟のこがれくていざ
言問はん我が思ひ見の

位少早ク
有星や
無しやと狂乱の



イヤ△ イヤ△

ハ 正体なきこそあやなけれ　道具下ニ置ク

舟人これを見るよりも　以下省畧

緑の橋場の土手づたひ

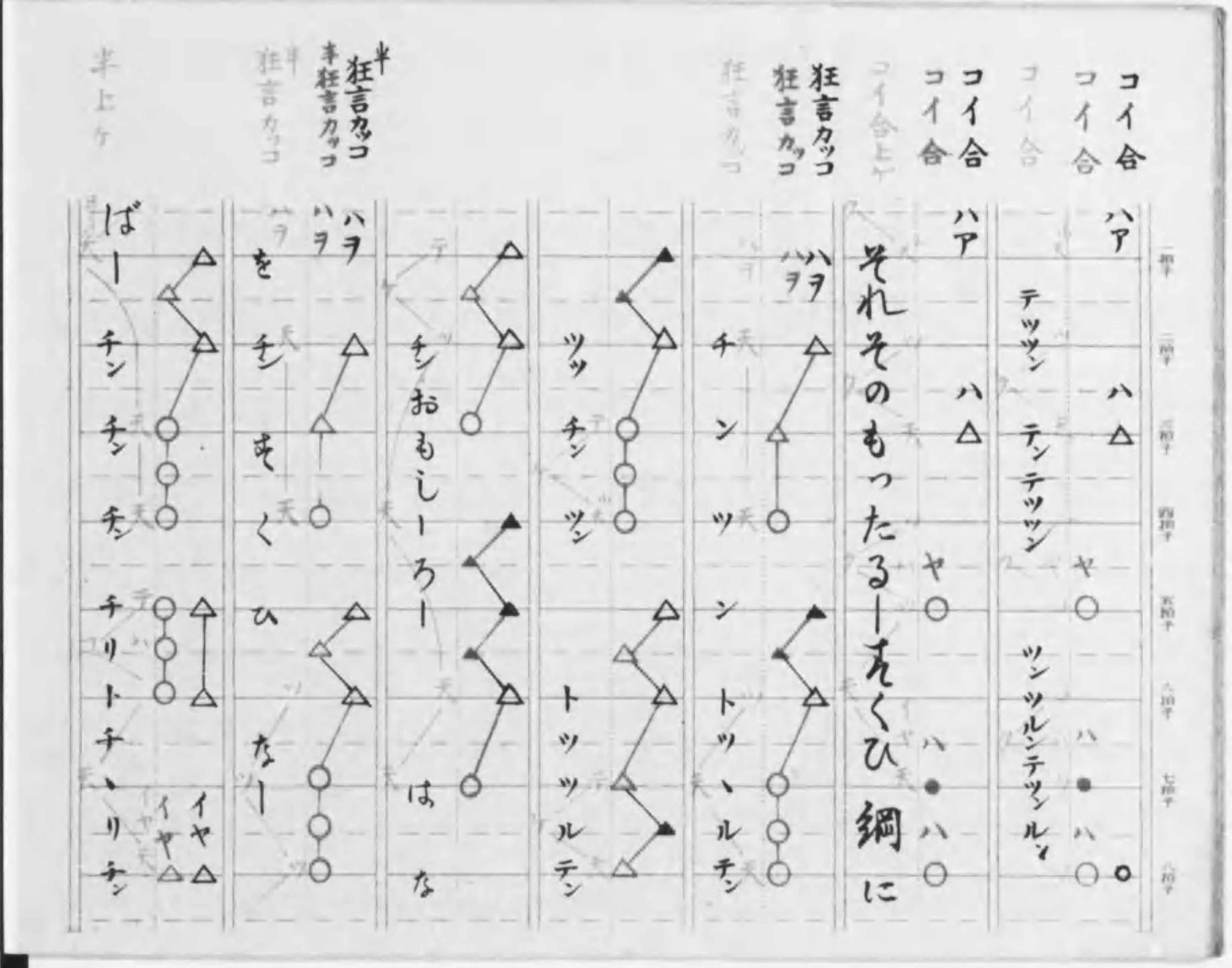
ゆきつもどりつ此処かしこ

尋ぬる我が子はいづくぞや

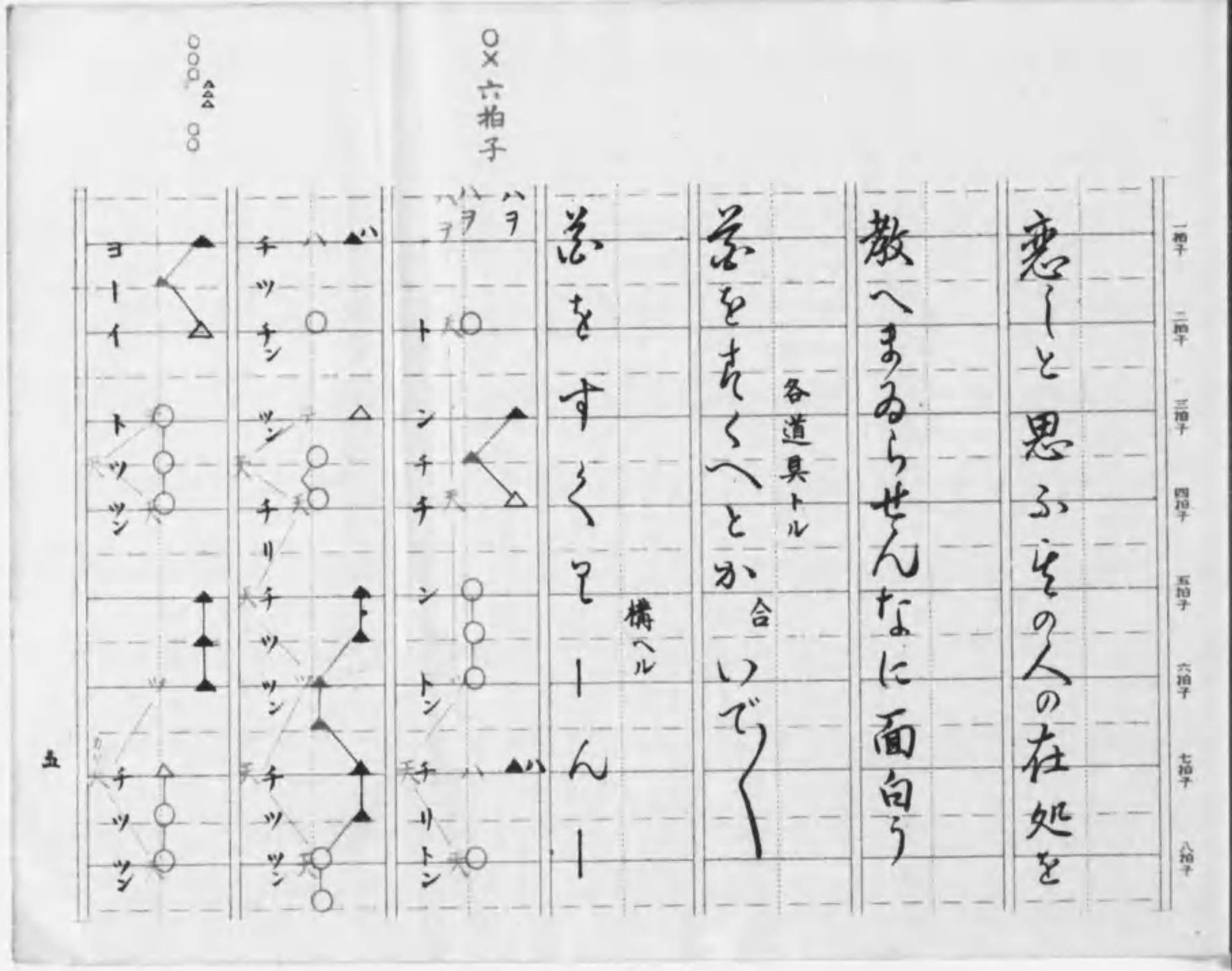
大小太鼓トル

教へてたべといふしほに

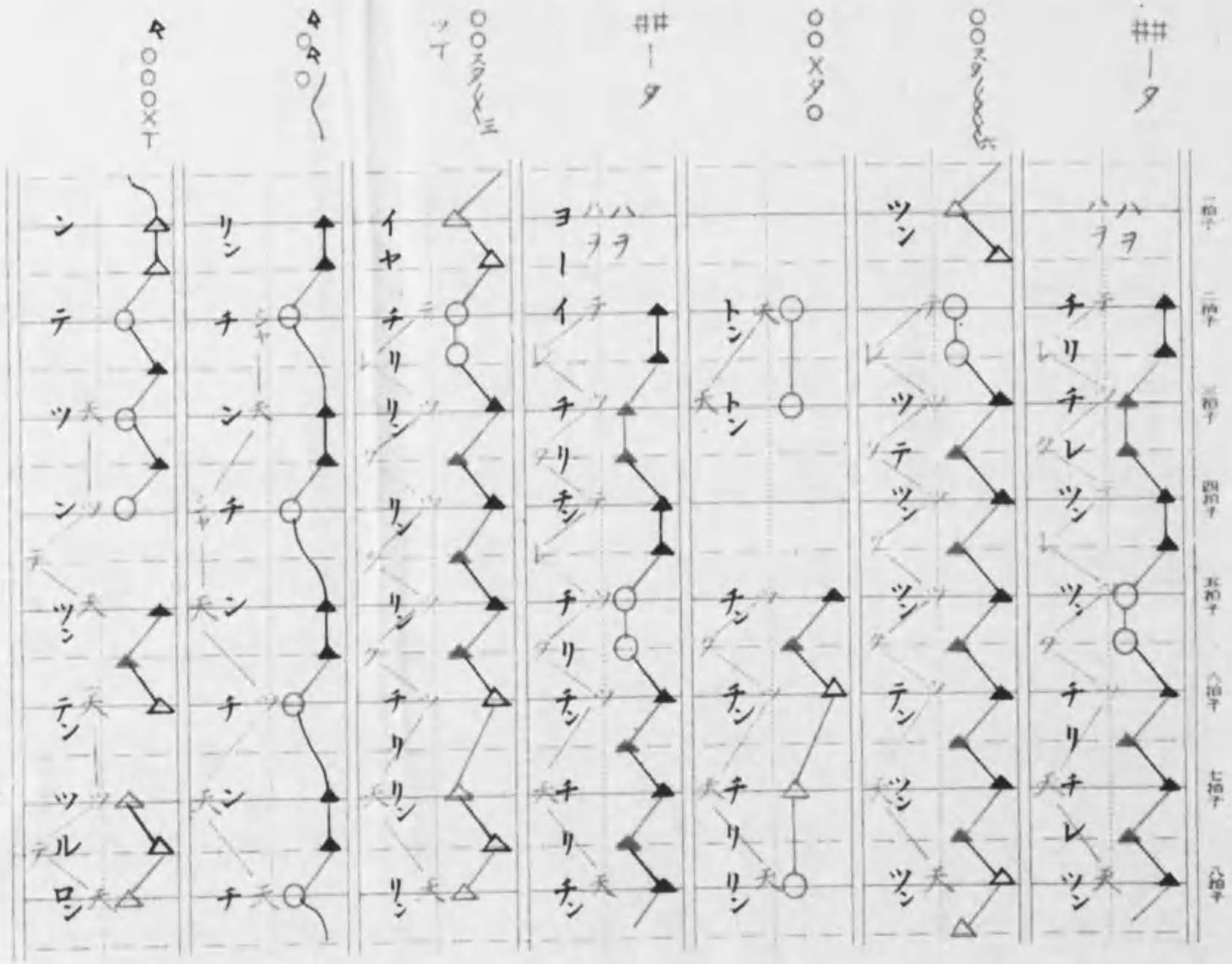
舟長尚も拘子にかゝり　各々構ヘル　位重クナラヌ様

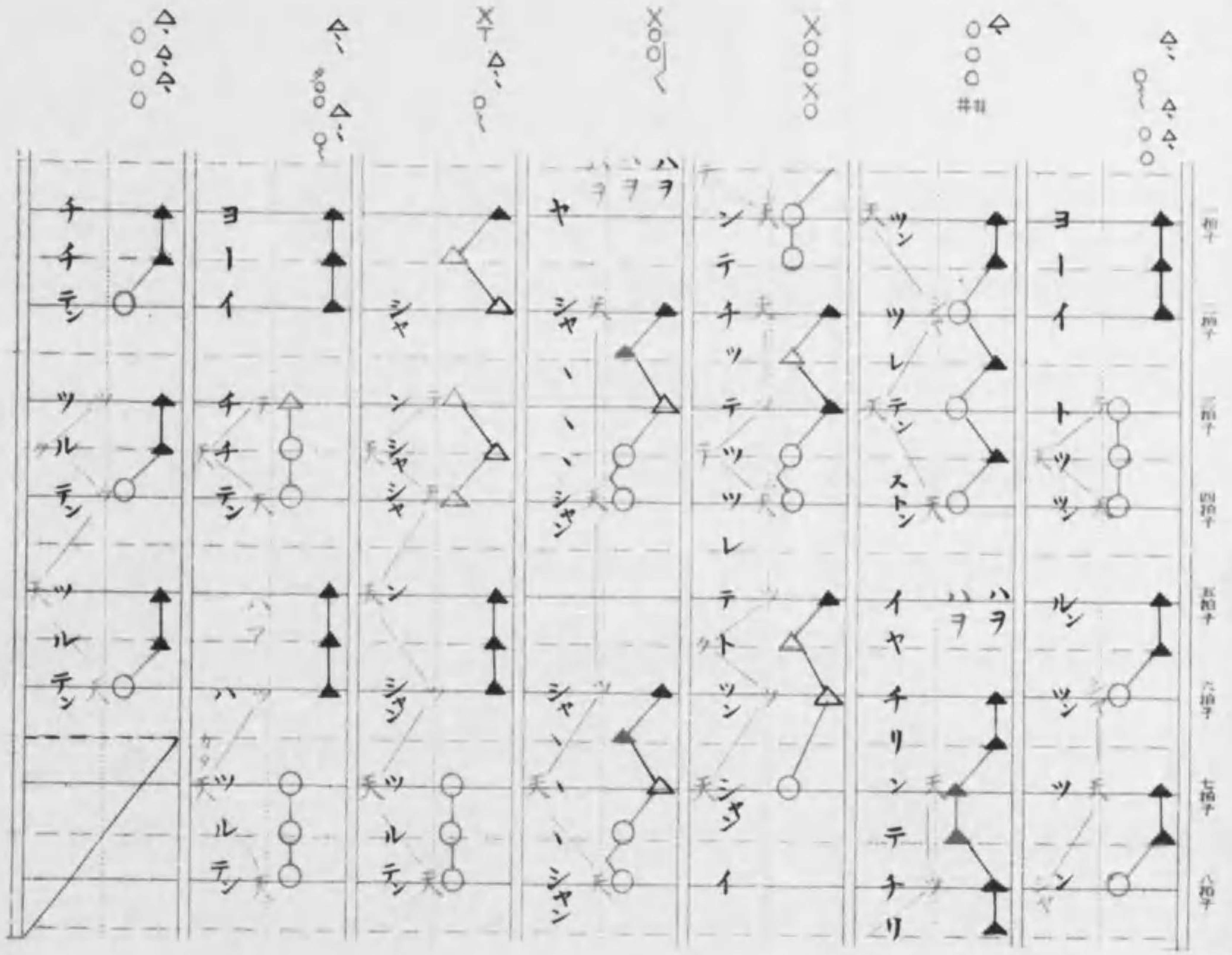


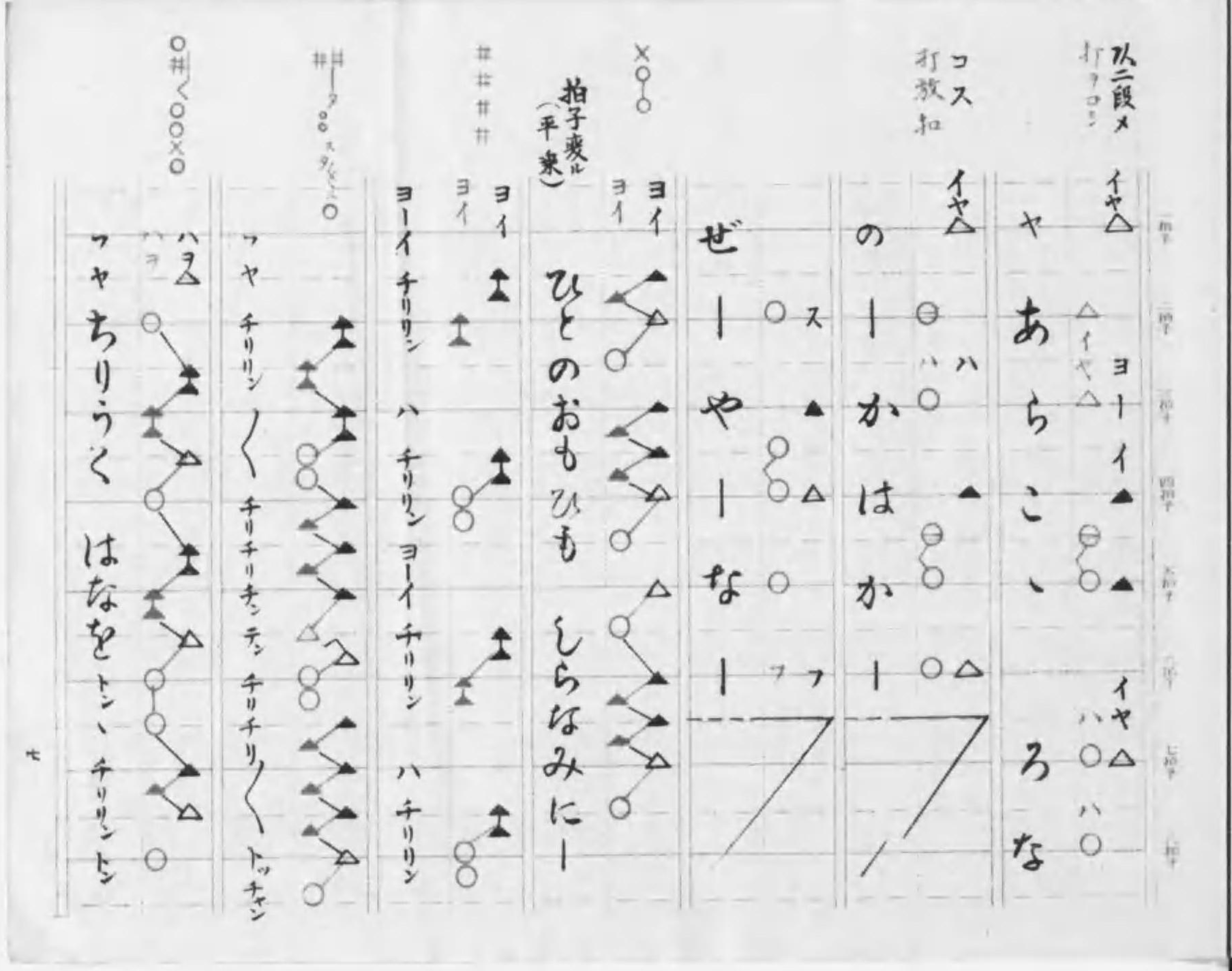
コイ合
コイ合
コイ合上ヶ
コイ合
コイ合
狂言カッコ
狂言カッコ
狂言カッコ
半狂言カッコ
半狂言カッコ
狂言カッコ
半上ケ
それそのもったるーもくひ綱に
おもしーろー
はな
をそくひなー
ばー

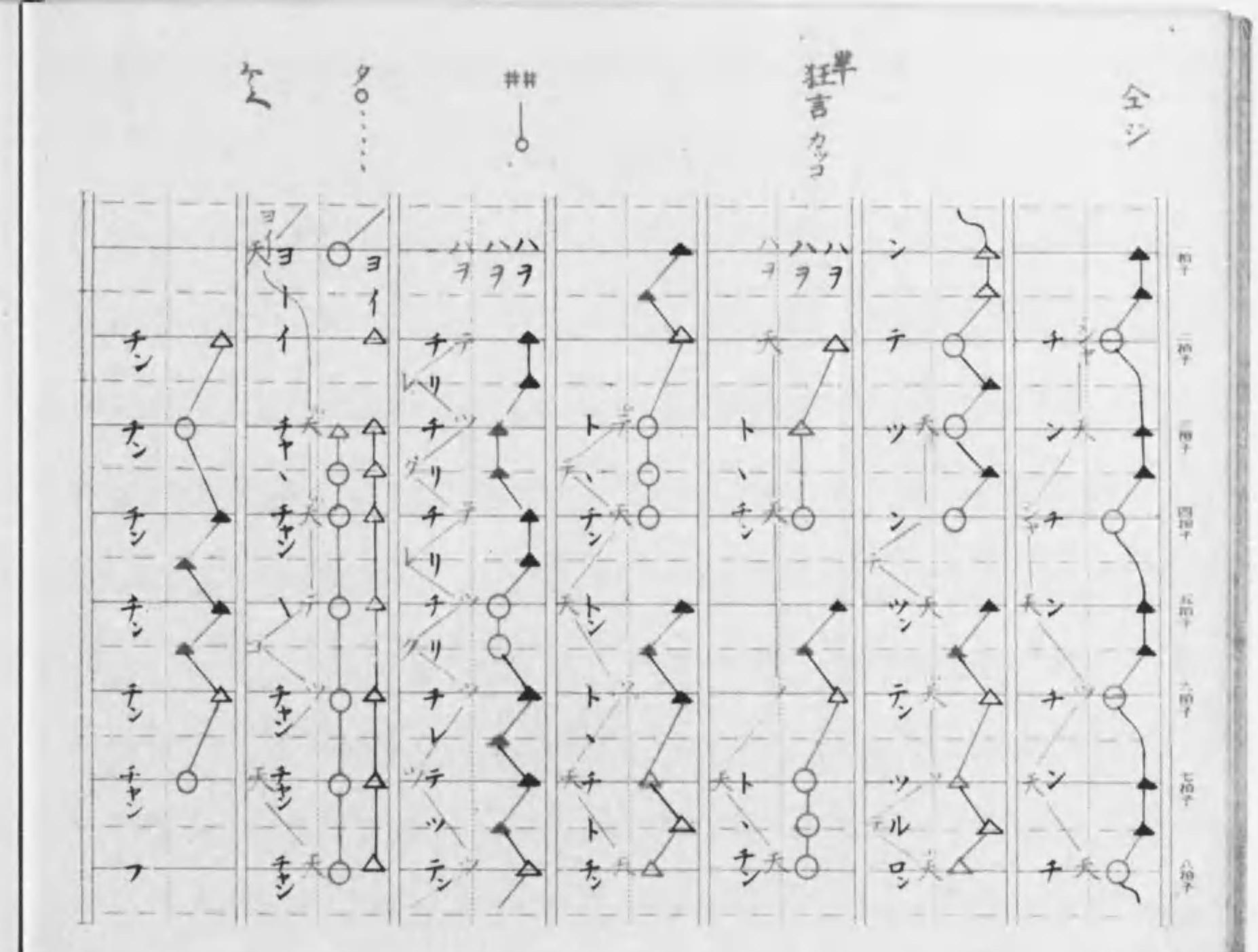


恋しと思ふその人の在処を
教へまゐらせんなに面白う
各道具トル
花をもくへとかいで
構ヘル
花をすくそーんー
六拍子






以二段メ
コス
打鼓和
拍子変ル
(平乗)
ヤ あらこゝろな
のーかはかー
ぜーやーなー
ひとのおもひも しらなみにー
ちりうく はなをトン、チリリントン
七


全ン
単
狂言
カッコ

ヨイ チリンヨーイイ すくひ集めん こゝろして
ふけ チレチレツンテン く トン かわかぜ
イヤ チリレン チリレントッチャン おきーーのー ハヲ

かもー チリンチテン めー のーー、いーー フ
ヨイ ヨイ カルクヨーイ ちゝ や ハヲ ちゝ ちゝ
むらく ぱっと ぱっとみだる
くろ かみ
オーーも 取りあげて結ふ
人もなし舟长今は氣の毒を
何がなしほにと立ちあがり

小鼓音譜

フヤ トン、 オイ ヤ ハ ハ
そもーさてもーてぶりよ

はーたれーびとのー見なれーば

イヤ ハア ハ ハ
チリンチンチンチンチンチンチン チンツンツンテットン

テットン ヤ ハ ハ
何ーほどのー見なれーばー

ハヲ ヤア ハヲ
ツテツルツツツツトントン ヤーハ
尋ねをまよふ

其の姿見ろ月も憂しといを

ハヲ
むればー ー

次ニツ
イヤ イヤ イヤ ヤ ハ ハ
音頭しーとたてむれのー

ツヾケ ツメル
ヤ ハ ヤ ハ ヤ ハ ハ
つゞみのしらべーひきしめてー

打上ゲ 打上ゲ
イヤ イヤ ヨリイイヤ ヤア ハア ハ

合次 合次
イヤ イヤ イヤ
鞨鼓おて見せうよテッ、、、、

ウケ次 ウケ立リ カッコメ手
イヤ イヤ イヤ ハ ヤ ハア
チ、ツントヽトンおもしーろー

討放
イヤ ヨイイ
のーはるのーけしきや

地 長地
ヤ ヤア ハン ハン ハ ヤ ハ
ふでーにもーいかーーで

地

チ、ツトトン つくーさん

長地 地

かすーみのー まには

キザミ

かばーーぎくーら

イヤ

ーくもと見えしは

地 ヌキ

みよしー墅ーの

高キザミ 結ビ乙

よし墅の川のー

本切

ーたきつせやー

本切

前ト全ジ

チチットトトン かぜに

イヤ

ーみだるーるー

いとーきくーら

ーチ、ツトトントいとし

かはいのチ、ツチツ

テッちごさくら

ーしたひかさねし

ヌキ
ー八重さーくー

結ビ
らーひとへさくらの

扣上ゲ
半打込
ーはなのえーんー

扣 扣
いとしらし

三段目
打ヨロシ
千里も香る梅若やー

付頭
めぐみをあふ

結ビヲドリ
ヲロシマクリ
ぐーかみかーぜは

地
長地
ーけふぞ日よし

のーまつりみかぐ

ツヾケ
ツメ
らきみがよーを

打込ミ
止メ打込
ー

段切
段切
チャン ツ テ チン チン 久しかれ

とぞ祝ふ氏

ハア　イヤ△
ハア〇　イヤ△
ハア〳　イヤ
ぴッン　ツン　と　チャン

昭和十一年二月三日印刷
昭和十一年二月十日發行

東京市牛込區市ケ谷本村町一丁目貳番地
著作者　望月太左衛門　安倍光之助

東京市日本橋區人形町三丁目拾貳番地
發行者　法木德兵衛

東京市芝區田村町六ノ一
印刷者　秀美堂印刷所　五十嵐清勝

發行所　東京市日本橋區人形町三丁目　法木書店　電話茅場町六四五〇番　振替口座四七七三四番

不許複製轉載

既刊目次

第一編　末廣狩　解說付
第二編　竹生島
第三編　小鍛治
第四編　橋辨慶
第五編　鶴龜
第六編　淺妻船
第七編　鞍馬山
第八編　常磐の庭
第九編　四季の山姥
第十編　越後獅子
第十一編　五郎、勢ひ
第十二編　新浦島
第十三編　勸進帳
第十四編　安宅の松
第十五編　汐汲
第十六編　浦島
第十七編　綱館
第十八編　賤機帶
第十九編　多摩川
第二十編　櫻狩

以下逐次出版

347
792

終